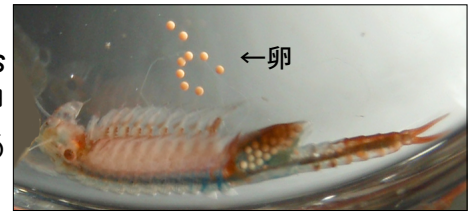


き た ほ う ね ん え び
キタハウネンエビ

甲殻綱 / 鰓脚亜綱 (ミジンコ亜綱) / 無甲目 (ハウネンエビ目) / ハウネンエビ科

■キタハウネンエビとは

キタハウネンエビ (北豊年蝦、学名 : *Drepanosurus uchidai*) は、淡水で生活する体長1.5~2 cmになる甲殻類です。名前にエビとつきますがエビの仲間ではありません。甲殻類ですが殻はなく、11対の脚を持ち、背中を下に向けて泳ぎます。本州の水田などでは近縁種のハウネンエビが見られ、これが大発生した年は豊作になる、とされています。



キタハウネンエビ (メス) と卵

■生息地

キタハウネンエビは、世界でも石狩湾沿岸の海岸林と青森県の下北半島でしか分布が確認されていない、日本の固有種です。昭和31 (1956) 年に小樽市銭函の海岸林で発見されました。青森県のレッドデータブックでは「Aランク」(最重要希少野生生物、県内では絶滅の危機に瀕している野生生物) に指定されています。

石狩の海岸林の中には、海岸線に平行な波状の微地形が続いています (花畔砂堤列、石狩ファイルNo. 1 参照)。キタハウネンエビは、春にその砂堤間の窪地に雪融け水が集まってできる、一時的な水たまり (融雪プール) に生息しています。

■生活史・生態

毎年4月上旬、積雪が融けて融雪プールができるとすぐ、孵化したキタハウネンエビが見られるようになります。3週間ほどで成熟し、直径約0.4mmの球形の卵を産みます。5月頃、プールが干上がるまでには成体は死滅しますが、残された卵は乾燥に強く、干上がった後も夏の高温と冬の低温にも耐え、翌年以降の春、再びプールが形成された時に孵化します。

■生息地の現状

砂堤列地形は、本来は海岸から内陸の紅葉山砂丘まで、5~6 kmの幅で広がっていました。しかし、農地や宅地の開発のために大部分は消失し、現在は幅1 km程度の海岸林の中にしか残っていません。それに伴い、キタハウネンエビの分布域も大幅に縮小したと考えられます。

海岸林内では現在でも融雪プールは数多く形成されますが、広さや水量は積雪量や地下水位などによって毎年変わり、年によってはまったく水がたまらないプールも出てきます。また、すべてのプールでキタハウネンエビが見られるわけではなく、新たなプールで生息が確認される一方で、かつて生息していたプールで近年は見られなくなってしまう事例もあります。キタハウネンエビの生息環境は非常に不安定なのです。

(志賀健司)

- (1) 青森県環境生活部自然保護課 (2000) 青森県の希少な野生生物——青森県レッドデータブック。青森県。
- (2) 北海道環境科学センター (2003) 石狩湾新港地域浮遊生物 (キタハウネンエビ) 調査報告書。北海道環境科学センター。
- (3) 五十嵐聖貴 (2007) 北海道石狩海岸林におけるキタハウネンエビの成長速度と生存期間。 (日本生態学会講演要旨)
- (4) 五十嵐聖貴 (2006) キタハウネンエビ~石狩の林に棲む春の妖精~。石狩浜海浜植物保護センター企画講座配布資料。
- (5) Kikuchi, H. (1957) Occurrence of a new fairy shrimp, *Chirocephalopsis uchidai* sp. nov., from Hokkaido, Japan (Chirocephalidae Anostraca). Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University, Ser. 6, Zoology, 13, 59-62.